

オンライン研修会 事前アンケート(回答・コメント)

(一財)日越教育・交流協会 日本語講師

有馬綾香

1. 現在携わっている学習者について教えてください。

- ① 国籍:バングラデシュ、ベトナム、モロッコ
- ② 人数:1 教室 1~4 名程度
- ③ ビザ:就労 3名, 特定技能 8名, 技能実習生 5名, 留学 2名
- ④ 日本語能力:N5~N2 まで
- ⑤ 使用教材
 - ・ 日本語能力試験公式問題集 N5, N4, N1
 - ・ やさしい日本語で書いたニュース(N4 教材)
 - ・ わたしらしくくらすための日本語ワークブック
 - ・ ベトナムで学ぶ学生のための日本語教科書 初級
 - ・ 初級日本語文法と教え方のポイント
 - ・ つなぐ日本語初級1
 - ・ 能力試験対策 N4
 - ・ 日本語総まとめN4
 - ・ 耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニング N3
 - ・ 耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング N3
 - ・ NHK NEWS WEB EASY
 - ・ 日本語の森 N1, N2
- ⑥ 学習内容
 - ・ 会話
 - ・ 文法
 - ・ N1~N4 試験対策
 - ・ ニュース読解
 - ・ 1年目は会話重視、2年目は文法
 - ・ 場面シラバスなどを使った会話学習
 - ・ N4まとめ

2. 学習者と接する際や、日本語を教える際に気をつけていることがあれば、教えてください。

- ・ 教師が学習者に一方的に説明をするのではなく、学習者の発話を促す質問型授業をするように心掛けています。
- ・ とにかく話しかけること、会話することを重視しています。
- ・ オンラインでの少人数の授業なので、受講者がリラックスして楽しめる環境づくりを心がけています。また、受講生はスマートフォンで受講するしかないため、文字を大きくする、画面ごとの情報量をあまり多くしないなどの対策を取っています。
- ・ できるだけ日本の文化も含めて説明するようにしています。
- ・ 試験対策だけでなく、日常会話で使う言い方を併せて説明するようにしています。
- ・ 教材以外に考えていることや日々の生活でのことを日本語で話してもらうように心がけています。
- ・ ゆっくり、はっきり話すようにし、どうしても言葉で意味が伝わらない時は、スマホで画像検索し、写真等を見せて理解して頂くようにしています。
- ・ 学習者のレベルに合わせた語彙、文型を使用するようにしています。
- ・ 教師がしゃべりすぎないように気を付けています。
- ・ リラックスして発言ができるような雰囲気づくりを心がけています。
- ・ ゆっくり、相手の目を見て話すようにしています。

3. 現在考えている課題や問題、悩みなどがあれば教えてください。

① 学習者が自習をしません。

⇒まずは、学習者が自律学習しやすい教材を選んでください。母語の翻訳があり、忙しい中でも隙間時間に学習できるものがいいです。スマホのアプリを活用するのも良いでしょう。語彙を1日5つ覚える、文法を1日に2つ練習するなど、少しのことを毎日続けて習慣にすることから始めてみてはいかがでしょうか。

② 欠席が多い学習者がいます。

⇒欠席の理由は様々だと思いますが、最も大切なのは休む理由を確認することです。体調不良や用事なら仕方がないですが、授業に対する「わからない、つまらない」といった不満なら、講師側が改善する必要があります。講師と学習者がお互いの貴重な時間を使っ

ているということを、しっかり認識してもらうことが大切です。

- ③ 学習者のレベルと意欲の問題があります。一人は学習意欲もなく N5もあやしいレベルです。ひとりは、N5レベルはあるが勉強しません。ひとりは7月に N4を受けても多分大丈夫なレベルです。

⇒来日 1 年で現在 N5 レベルとのこと。まずはテキストを変えてみてはいかがでしょう。勉強をしたくないのか、それとも理解できていないから学習意欲が湧かないのか、よく観察してみましょう。レベル差があるなら、学習者同士で教え合う学習方法も効果的です。

- ④ ベトナム人がベトナムの学生に教えるテキストを使っていますが、難しいです。やめたいのですが、はじめてしまっているので、今は他のテキストと併用でしています。

⇒学習者にとって時間は有限。できるだけ短期間で多くのことを身につけたいと思っているはず。そのような学習者に、無理をして合わない教材を使うのは時間の無駄です。講師と学習者双方が「難しい、合わない、やめたい」と感じているのであれば、潔く変更することも必要です。同じ時間で他のテキストならより多くのことが理解できるかもしれません。また、テキストは必ずしも最初から始める必要はありません。既に学習した項目があるのなら、その部分を飛ばして途中から始めても OK です。

- ⑤ 今は4つのテキストを1つにつき 30 分ずつ併用しています。深まりがない気がしています。

⇒N3 以上の学習なら 30 分ごとにテキストや学習内容(語彙、文法、漢字、読解、聴解)を変えても問題ありません。

初級(N5~4)はなるべく同じシリーズの教材を使用することをお勧めします。

例えば、使用テキストが『みんなの日本語』なら、会話や読解、聴解など同じみんなの日本語シリーズのものを使用しましょう。その理由は、使用する語彙や文法が課ごとに統一されているためです。初級は初めて目にする語彙や文法が多いため、様々なテキストを多く使用すると、そのテキストごとに新出語彙や文法を教える必要があります。わからない言葉や文法に学習者は混乱し、講師は説明に時間を費やすため、その分タイムロスとなります。1 回の授業で教える語彙や文法をしっかりと決め、学習したことを使えるようになるまでしっかりと練習するようにすると、学習は深まります。

- ⑥ 生活・日常語彙レベルでの漢字知識の導入が必要ですが、日本人ですら、漢字の「勉強」は苦痛なものです。公式問題集の問題をもちいながら、クイズ形式で答えてもらうことなどをしていますが、どうしたら、オンラインで楽しく漢字が学べる授業になるのか、思案中です。

⇒オンラインのメリットは写真や動画などの視聴覚教材が使いやすいことです。文章中の“文字”として学習するのは、確かに退屈で“暗記”になりやすいです。そこで、写真や動画を活用し、街中や生活しているなかで見かける漢字から始めてみるのはいかがでしょうか。例えば、道路標識の「止まれ」「駐車禁止」、看板に書かれている「〇〇病院」、ATM の「お引出し」など、日常生活でよく目にしているものなら漢字をより身近に感じやすいです。さらに、その漢字が読める、意味が分かることで、どのようないいことがあり、何ができるようになるのかを伝えることが大切です。

〈おススメの教材〉

『できる日本語』準拠の『漢字たまご 初級～初中級』

N3以上なら『日本語総まとめ N3～N1 漢字』

- ⑦ 学習者の発言の機会をできるだけ多くしたいと考えますが、初級者ということもあり、フリートークは難しく、かといってあまり一方的な授業になってしまうとつまらないという問題について考えています。

⇒確かに初級でフリートークを行うのは難しいですね。

では、逆の立場で考えてみましょう。あなたは韓国語を習い始めて数か月です。まだ語彙や文法があまりわかりませんし、自信もありません。でも先生から、「フリートークをしてください」と言われました。さて、あなたはどんな気持ちですか？

講師の立場からすると、間違えてもいいからどんどん話してほしいと思うかもしれませんが、学習者は講師が思っている以上に間違いを恐れています。

授業や日本語に慣れるまでは、講師主導でも問題ありません。学習を進めていく中で、日本と母国との違いや、日常の生活について話していくことで、少しずつ話題を広げていけばいいのです。慣れてくると、学習者の方から主体的に話題を振ってくることもあります。

⑧ まだ、スタートしたばかりで、様々な事が初めてです。昨日、市に在住の外国の方と話をしましたが、何を話題にすればいいのか、悩みました。

⇒いつ、どうして日本に来たのか、日本の生活はどうか、家族はいるか、日本の食べ物は好きか、母国はどんなところか、困っていることはないかなど、気になることを聞いてみるといいでしょう。コミュニケーションが難しければ、スマホなどの翻訳機能を使ったり、絵や写真・動画などを見せたり、見せてもらったりしながら話していくと、少しずつ打ち解けていきます。

⑨ 進捗に合わせた教材の選定について悩んでいます。

⑩ 次の教材をどうしようか悩んでいます。

⇒レベルごとに使用する教材を先に決めておくと、授業を進める上での目安となります。例えば、初級～初中級を『できる日本語』、N3 を『TRY！日本語能力試験 N3』、N2 を『日本語総まとめ』というように、メインテキストをあらかじめ決めておき、学習者に応じて 4 技能（話す、聞く、読む、書く）のどれを中心に学習していくかを考え、適宜補助教材を追加するようにします。そうすると、何に重点を置き、どのような授業を組み立てていけばいいかが見えてきます。

また、教材は学習者だけでなく、講師にも合うものを選んだ方がいいでしょう。

⑪ 3 名が N3 受検を目指していますが、合否が分かれた場合、N3 の内容を継続すべきか、N2 の教材を使用した方が良いのか迷っています。受講生と相談して決めることにはなると思っています。

⇒大切なことは受講生の「意志」なので、相談して決めることが第一です。意見が分かれたときは、どちらもカバーできる中級教材(N3、N2というレベル分けがされていない教材)を選ぶといいです。

⑫ 介護の専門学生で、専門用語や特有の言い回しの指導の必要性を感じています。

⇒近年、外国人向けの介護知識を学ぶ教材や介護の専門日本語教材がいくつか出版されています。講師自身も学ぶ必要性がありますが、学習者にとっては大きな助けとなるでしょう。

4. 今後に向けた改善策や提案があれば教えてください。

- ① 講師はあくまでもボランティアなので、学習者の出席状況や受講態度について、注意することはするが、あまり強くは言えません。最終的には企業側の責任だと思うので、企業に学習者への注意喚起をしたり、日本語能力アップが待遇アップにつながるなどの方策を考えていただけたらとありがたいです。

⇒日本語教育業界でもよくある問題です。アルバイトはしっかりこなしているが、学校は欠席しがち、あるいはその逆で、学校には出席しているが、アルバイトは遅刻や無断欠勤が多いといった事例です。どちらも欠席や欠勤が多い場合は、根本的に本人の問題ですが、どちらかの場合はまだ改善の余地があります。また、待遇アップに関しては、学校現場でいうと皆勤賞や学費がいくらか安くなるといったところですが、期待するほどモチベーションアップにはつながっていません。

おそらく、ご回答者様の学習者は仕事で遅刻や欠勤をすることはめったにないと思います。企業側からすると、会社にはきちんと出勤しているため、日本語教室側の問題だと感じるのではないのでしょうか。注意はしてもらえても、根本的な解決にはならないでしょう。ボランティアといっても、何らかの形で金銭が発生しているのなら、責任が伴います。つまり、講師が解決すべき問題です。厳しく注意する以外にもできることはあります。現在の講座内容は学習者にとって魅力的ですか？学習者に適していますか？学習者に目標があっても、意欲がなければ続きません。思い切って、目標を変えてみてはいかがでしょうか。

- ② 暗中模索の状態です。

⇒教えていると疑問が出て、解決策を探して、解決したら、また次の問題が出てくる。
この繰り返しですね。

- ③ 学習者が「日本に来て、日本語を学んでよかった」と思えることが、知識の導入に劣らず重要なことに感じますので、諸々の課題はありつつも、全体として活発さのある授業であることが、結果として、本来の意味でのアクティブなラーニングになるのではないかと考え始めています。

⇒おっしゃる通りだと思います。

- ④ 市に住んでいる外国の方に、少しでもよりよい生活を送っていただきたいので、もっとコミュニケーション能力、話題のバリエーションに強くなればと思います。

⇒「少しでもよりよい生活を送っていただきたい」という考え、とても素晴らしいです。日常生活が少しでも簡単になるような手助けができるよう、職場や買い物でよく使う会話だけでなく、ごみ捨てのルール、日本人の時間の概念など、日本人特有の文化や考え方なども併せて伝えられるといいですね。

- ⑤ 日本語の授業時数が少なく介護の国家試験を控えているため、効率的に独学が進められるように手助けしていきたいです。

⇒準備にかなり時間を割きますが、eラーニングが効果的であったという事例があります。

5. 講師へのご質問があれば、ご記入ください。

- ① 複数のテキストですすめていいものですか？

⇒ 3. ⑤でお答えした通り、N3 以上であれば複数テキストを進めても問題ありません。ただし、初級(ゼロ～N4 程度)はなるべく同じシリーズのテキストを使用することをお勧めします。

- ② 発音や文法の教え方が知りたいです。

⇒発音指導

同じ音がある言葉をいくつか言わせ、きちんと発音できた語彙を褒めて、その音が定着するまで何度も繰り返すのが最も簡単な方法です。

例えば、ベトナム人学習者は「つ」を「ちゅ」と発音する傾向があります。それは舌の位置の問題なのですが、「つ」の発音を練習するために「なつ」「いつつ」「あつまる」「つかれた」「こうつう」「ツアー」などの「つ」音がある言葉をたくさん言ってもらい、正しい発音を理解させます。その後は、意識して言うように適宜訂正します。

⇒文法の教え方

直接法(日本語で日本語を教える教授法)で教える場合、初級～初中級(N5～N4)と中級

(N3)以上の教え方は異なります。

- 初級～初中級は日本語能力が低いため、「イメージ」がカギとなります。

例えば、「～てください」を教える場合、この文型を使用する様々な場面をイメージしてもらいます。

- ・ 「すみません、このペンを貸してください。」
- ・ 「すみません、ちょっと手伝ってください。」
- ・ 「ちょっと待ってください。」

その際に、絵カードや写真等を活用すればより理解が深まります。そして、文法説明に入りますが、その前に注意しなければならないのが、「～てください」の前に、動詞「て形」(貸して、手伝って、待って)の作り方を教える必要があることです。学習者はどうすれば「貸します」が「貸して」になるのかわかりません。ですから、その規則性を教え、自分で作れるようになるように何度も練習を繰り返します。一度での定着は難しいため、次回で復習したり、他の文型で「て形」が出てきたときに再度復習したりします。そして、「て形」が理解できたら、文型「～てください」の練習をし、練習問題を解くことで文型のバリエーションを学習した後に、学習者自身で文作成をしたり、会話の練習をしたりします。最終的に他の文型や語彙を組み合わせて、自分たちで会話を作成し、ロールプレイまでできればベストです。

初級～初中級の教え方に関しては、インターネットで「日本語教師 教案」や「みんなの日本語 教案」で検索すると、日本語教師が作成した授業計画やイラストなどを見ることができます。参考にしてみてください。

- 中級(N3)以上は初級ほど丁寧に教える必要はありません。注意点は、その文型の意味や使い方だけでなく、どのような場面で見聞きし、そして使うか、話し言葉か、書き言葉か、改まった表現か、カジュアルか、使う相手(目上の人にも OK か)などの情報を併せて伝えることです。そして、1 つの文型で例文を少なくとも2～3文は紹介しましょう。例えば、「～っぽい」という文型を教えるとします。この文型は使う語彙で若干意味が変わります。

- A) 犯人は黒っぽい服を着ていた。(黒のような色の)
- B) この料理は油っぽい。(油が多い感じがする)
- C) 木村さんは飽きっぽい性格だ。(すぐに飽きる)

A)、B)は「～のように見える、感じる」という意味ですが、C)は「よく～する、すぐに～する」という意味になります。さらに、文章でも使いますが、どちらかというと口語、つまり話し言葉で、カジュアルな言い方です。日常会話でもよく使われますね。目上の人に使

っても問題はありませんが、友達同士で使うことが多いと思います。このように実際に使うことを想定しながら教えると、より理解が深まります。

一つ一つの文法の教え方に関しては、例えば「～っぽい 文法」のように検索すると、日本語教師が作成した文法説明や例文を見ることができます。

- ③ 受講生の会社ではベトナム人実習生が多く15名。N1のベトナム人職員も配置されており、日常的に日本語を使わない環境になっています。教室以外の日本語を使う機会が期待できないことです。

⇒例えば、「仕事中は日本語を使うようにする」という約束を作ってみてはどうでしょうか。N1のベトナム人職員に対しても同様に約束してもらい、どうしても必要な時だけベトナム語で説明してもらうようにします。仕事中は他の日本人の目もあるでしょうし、意識的に努力するような環境ができると思います。プライベートな時間は、ストレス発散のためにも日本語を話すことを強要しない方がいいでしょう。

- ④ 外国の方とお話をするとき、これだけは避けた方がいい事とかあったら、教えていただきたいです。

⇒多国籍クラスの場合は、政治の話は避けた方がいいです。特に隣接する国同士は仲が悪いことが多いので、ちょっとした小競り合いに発展する場合があります。お金の話や年齢については、日本ではあまり好まれないことが多いですが、さほど気にしない国もあります。話題以外では、日本語がつかないからといって、子どもに話すように接するのは失礼にあたります。対等な大人として接してください。

6. その他ご意見等、ご自由にご記入ください。

- ・ スマートフォンで受講するしかない環境は致し方ない面もあり、その環境への対処は常々考えてはいますが、やはり学習に支障がないとは言いきれません。実現は難しいと思いますが、持続的かつ安定的な日本語教育の推進を考えるならば、学習者へのタブレットの貸与・支給などのシステム構築が必要だと思います。
- ・ 自由に書かせていただきます。昨年、ウクライナ侵攻が始まり、ウクライナから日本に避難してくる人々に何かできないかと、ロシア語を学びながら、SNSとかで少しアクセスして

いました。日本語サポーターとして、自分なりに少しでも成長して、外国の方と、友好を深めて、いろんな国の方々のサポートができればと思います。

ただ、楽しくコミュニケーションを取るのは難しく、緊張してしまいます。これからも講習を通して、いろいろ学べればと思います。

- ・ 研修会、楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 研修会参加できずに残念ですが、またこのような機会をいただけたらありがたいです。

ご協力ありがとうございました。